

栃の木からの手紙

2020年 葉月 8月号



BIHORO BASE、BIHOROマルシェ。一歩前進しました。この行事に参加する為に、そして自然農法農産物・有機農産物の販売・紹介をする為に、今年自然農法畑の作付けは考えられた。秋までの農産物の少ない時期に何を販売するか？6月に収穫できる物。新規導入農産物「食用ビーツ」を如何に広めて行くか？5月から11月の毎月第一日曜日9時から13時に行われるBIHORO BASE。コロナ問題で5、6月は中止になっていましたが、7月からコロナ対策を十分に行ったうえで開催する事が決定されました。

- 4日： 満月 旧 6月 15日
- 6日： 広島原爆の日
- 7日： 立秋
- 9日： 長崎原爆の日
- 12日： 御巢鷹山慰霊の日（日航ジャンボ機墜落）
- 15日： 平和祈念の日
- 19日： 新月 旧7月 1日
- 23日： 処暑



冬から準備を進めた食用ビーツの加工品。
自然農法産種子に拘ったレタスの栽培。

開催当日は、JA美幌、日甜美幌製糖所から提供していただいた美幌の農産加工品の紹介。食用ビーツの加工品の試食と販売。有機農産物の芋と黒大豆の販売。

今まで農家自らの出店としては、10月の大空町道の駅での「輝農祭」、北見センターの「収穫祭」の2件。それぞれに良さはあるが、定期的に行われる「美幌ベース」は、参加業種が幅広くこちら側の参加意識が一歩前進しました。

自分の農産物の販売以外に、伝える・紹介する意識。今、活動する事が明日・将来の現実に還って来る

7月下旬、例年に無く蟬や空蟬を多く見かけ、生きた幼虫を始めて見ました。蟬は、樹木の皮に産み付けられた小さい米粒の様な卵が翌年の初夏に孵化して樹木の根元の土に入り10年前後の長い期間土中で生活する。卵から成虫まで幾度か姿を変えて樹上で鳴く蟬となる。人は、蟬の様には行かないが、こころの次元上昇は意識して行って往きたいものです。

今年も7月下旬、自然農法の畑に現れたヒマワリのイエローベルトが、こころを癒してくれました。

